

太宰治と私

永盛 信之

今、若者の間で太宰治が静かなブームになっているというニュースがメディアによく流れています。実は、私も以前から太宰作品をよく読んでいました。10年以上前には、青森県金木町(現:五所川原市)まで旅をし、生家である斜陽館を訪れ、津軽平野の自然の中でしばし太宰を偲びました。また、今年は生誕100年記念ということも相まって見学者が増えている太宰治終焉の地である三鷹にも足を伸ばし、ゆかりの場所に立つことで晩年の琴線にふれてみようと思いました。

最近ある雑誌で見かけたことですが、代表作の『人間失格』は、累計で600万部を越えており、特に一昨年からは記録的な売り上げが続いているそうです。果たして今も読み継がれる太宰治の魅力とはいかなるものなのでしょうか。私自身が作品の中から感じるの、普通なら隠しておきたいような気持ちでも太宰治は正直に書いているので、どんな登場人物にも共感できる点が見出せることです。つまり、人間の弱さや強さ、優しさをそっと語りかけてくれているような心境にさせてくれるのです。

私が太宰作品と出会ったのは、高校2年生のときの現代国語の授業で、作品は「富士には月見草がよく似合ふ」の一節が有名な『富嶽百景』でした。この授業をしていたN先生は、今で言う「ブックトーク」のような話がとても巧みであり、その本の内容というよりは面白さを伝えてくれました。私はこれをきっかけとして、時間があると高校の図書館に行っては、『女生徒』『走れメロス』『桜桃』などの短編を中心に読むようになりました。

子どもたちに読み聞かせや朗読を行うことは、本好きにするために大変効果的ですが、ブックトークによるブックトークを行うことも、作品や作家への興味を誘う方法として有効だと思います。私も小中学校で担任をしていたときに、読書の楽しさをどれほど味わわせてきたか自信はありませんが、これからも地道に楽しさを伝える取り組みをしていきたいと考えています。

さて結びになりますが、私は太宰治の作品や人生に大きな関心と共感を抱いて過ごしてきたのですが、「太宰を愛読していた」と他に話すときに、いつも少しだけ気恥ずかしさを感じるのなぜなのか自分でも不可解なところ。これもきっと太宰治の不思議な魅力の一つなのかなと思います。

(ながもり・のぶゆき / 鳥羽小学校長)

9月の予定

おはなし会 午後3時から 児童室にて

<p>9月13日(日)</p> <p>『巨人と少年』 フィオナ・ムーディ 絵と文, 川崎 洋 訳. セーラー出版.</p> <p>『Goodnight Moon』 マーガレット・ワイズ・ブラウン 文 クレメント・ハード 絵 ハーパー・コリンズ・パブリッシャーズ.</p>	<p>9月20日(日)</p> <p>『やまからにげてきた・ゴミをばいばい』 田島 征三 作 童心社</p> <p>『ぼくがいっぱい』 いもと ようこ 作・絵 岩崎書店</p>
---	--

板津洋吉写真展「筑波山系のいま」

美しい筑波山系も、一步山に入れば環境の悪化が目立ちます。山系と私たちの暮らしを写した写真をテーマ毎に展示します。

期間：9月8日(火)～9月29日(火)

10:00～18:00

ただし、月曜日、9月22日、23日は休館

場所：明野図書館 一般室



図書館カレンダー

9月 SEP							10月 OCT						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31

【開館時間】
午前10時から
午後6時まで

は休みです。